

137年の歴史に幕



自分たちで約3カ月半かけて作った閉校記念タイル壁画の前に立つ大代小の全校児童

大田・大代小 閉校イベント タイル壁画除幕も

大田市の小学校統合に
伴い3月末で137年の
歴史に幕を閉じる同市大
代町の大代小で18日、閉
校記念行事があった。全
校児童6人が閉校を記念
して制作したタイル壁画
の除幕などを行い、教職
員や地元住民ら約200
人とともに思い出深い学
びやとの別れを惜しん
だ。

閉校記念タイル壁画は
縦1・45メートル、横2・4メートル。
大代小学校舎をバックにみ
こしを担ぐ児童の姿を描
いている。

同小卒業生の農業、森
守さん(68)「同市大代町
が描いた下絵を基に、
児童たちが同小卒業生で
宮大工の森下孝明さん
(64)「同市祖式町」の指
導を受け、約3カ月半か
けて作った。

閉校記念行事では、児
童が学習成果を発表し、
児童と教職員が合唱など
を披露した後、同小玄関
に設置されたタイル壁画
を除幕。参加者全員で、
大代小への感謝の気持ち
を込めて校歌を歌い、行
事を締めくくった。

大代小は4月、約8キロ
離れた高山小(同市水上
町)に統合され、大代町
の児童は4月から新「高

山小」にスクールバスで
通学する。

大代小4年、谷口怜里
さん(10)は「大代小がな
くなるのはさみしいが、
仲間と一緒に高山小での
学校生活を頑張りたい」
と話した。

大代小 全員で合唱、閉校惜しむ

140年近い歴史に幕を下ろし今月で閉校となる大田市大代町の大代小学校で18日、お別れの会があり、



閉校記念のタイル壁画をつくった大代小学校の全児童＝大田市大代町

最後の児童6人や地元の人たち約200人が名残を惜しんだ。

会では、絶滅が心配されるギフチョウの飼育などの体験を児童が発表。卒業生も含め全員で「ふるさと」を歌った。みこしを担ぐ子どもや校舎を児童が描いた記念のタイル壁画（縦1・

5桁、横2・4桁）の除幕式もあった。

1960年に卒業した実行委員長の佐藤哲朗さん（64）は「無くなるのは残念だが、時代に逆らえない」とあいさつした。

大代小は、50年代に児童数が300人を超えていた。高山小学校と4月に統合し、地元の児童はスクールバスで通学する。

（中村正夫）

学び舎だ「ありがとう」歴史に幕

今年度で閉校となる大田市立大代小学校で十八日、閉校式とお別れの会が行われた。全校児童六人、地元住民や行政関係者約二百人が集い、別れを惜しんだ。



記念壁画を前に

大田・大代小で閉校式



ステージで歌う児童と教職員

希少種のギフチョウが生息する大江高山のふもとに位置する同校。一八七四(明治七)年とその翌年に開校した大家小と八代小が一九四八(昭和二十三)年に合併して歴史を刻んできた。

ギフチョウの保護や、大代町で育てたミツマタで製造した和紙での卒業証書製作など、地域に根ざした活動を展開してきた同校。児童数が減少し、今年度は六人だった。

地元住民らが主催したお別れ会では、児童が「大代の自慢」として、和紙やソバについて発表。「地域の皆さん、見守ってください」卒業生のみなさん、

ありがとう、ごいまして」と大きく声をそろえた。

また、閉校を記念して児童や教職員らが、昨年の秋から製作を進めた壁画の除幕も行われた。この壁画は、同

校の卒業生が原画と木枠を作り、児童らがタイルを貼って完成させた。

同校の児童は、来年度から、統合した高山小へバスで通う。

記念撮影

思い出深い体育館で児童や教職員、卒業生の地域住民らが最後の記念撮影に臨んだ



母校への思い 心に刻む



児童熱演 閉校記念行事は児童の演奏でスタート

大田・大代小で閉校行事

3月末で閉校となる大田市大代町の大代小学校でこのほど、閉校記念行事があり、全校児童6人や保護者、教職員、卒業生の地域住民らが137年の歴史と思い出が詰まった母校への思いを心に刻んだ。

カメラ スケッチ

校歌斉唱

児童6人を中心に参加者全員で校歌を歌い、記念行事を締めくくった

